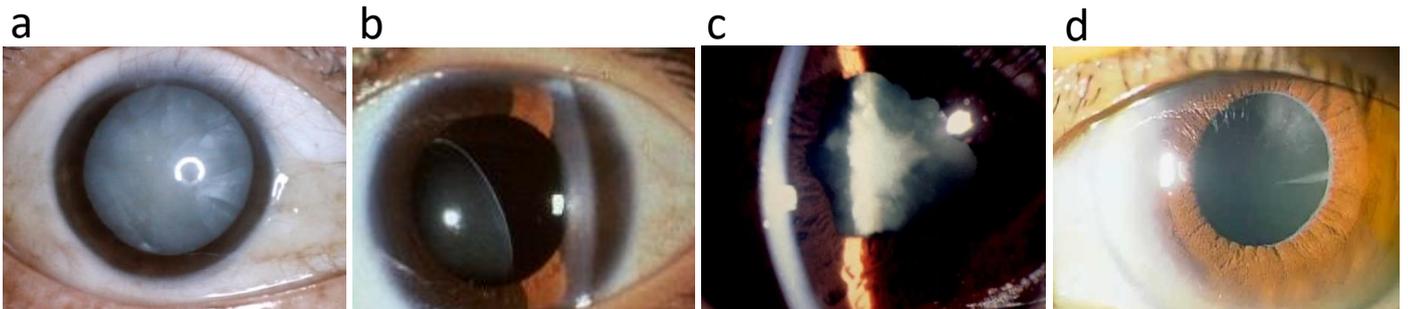


👉 難治性の白内障手術

手術の難しい白内障とは、進行しすぎて水晶体がかなり固くなってしまっている場合（図a）、水晶体そのものを眼球に固定しているチン小帯が断裂あるいは弱くなっている場合（図b）、目の中の炎症を起こす病気（ぶどう膜炎やアトピー）によって虹彩と水晶体がくっついている（癒着）場合（図c）、瞳孔と水晶体が接触して瞳孔の縁が白くなっている場合（図d）などがあげられます。

このような場合、手術に際して合併症が生じた場合に対応できる設備と医師の技術が必要になります。

ご自身の白内障がどのような状態なのかを主治医の先生にしっかりと説明してもらい、ご自身でしっかり把握した上で手術を受けることが大切です。



👉 特殊な眼内レンズ

白内障手術では、水晶体を摘出した後に人工の眼内レンズを入れます。眼内レンズには様々な種類のものがあります。その機能で大きく分けると、通常の眼内レンズ、乱視を軽減させる乱視用の眼内レンズ、遠近両用のピントをもつ遠近両用眼内レンズの3種類があります。通常の眼内レンズおよび乱視用眼内レンズは健康保険の範囲内でうけることが可能です。遠近両用眼内レンズはその名の通り眼内レンズに遠近両方のピントを持ちますので、眼鏡なしでの生活を可能にしてくれます。下図のように買い物時などにも眼鏡がいらずに快適です。ただし健康保険の適応外治療となるため、自由診療または先進医療となります。眼鏡なしでの生活を希望される方には、メリットが大きいのですが、手術を受ける前に費用や適応について、主治医の先生としっかりと相談することが大切です。



単焦点眼内レンズの見え方



多焦点眼内レンズの見え方